

鴨川市史にみる海のエピソード ウミガメとのおつきあい

鴨川の海岸で現在行なわれていることと、市史にあるお話の連続性に注目

- ・ 鴨川の漁師は、海亀をリュウジンサマと呼んだ。竜神様のお使いとして大切に扱っていた。
- ・ 海亀が定置網のなかに入り込んでしまった場合には、ていねいに網の中から出し、亀に酒を飲ませて海に放した。

定置網にかかった亀を厄介者扱いしないで丁寧に扱っていたのは、神秘性を信じていたためだろう。

- ・ 前原海岸では、海亀が産卵に来ると、産卵後にその場所に注連縄を張り、酒で清め、無事に孵化することを祈った。

注連縄を張って、産卵地点の攪乱を防いだ。卵に直接触れないで保護する手法は、実はかなり合理的なウミガメ保護法であったと考えられる。注連縄には宗教的な意味があるので、立ち入りをソフトに禁止する社会的手法？！である。

現在のウミガメの生物学的研究では、卵の殻のなかで稚カメが発生する初めの時期には発生の極性（上下方向）が大事なので、動かしてしまうと発生や成長に悪影響があることがわかってきた。当時の鴨川の人たちがこのことをどこまで知っていたかは不明であるが、野生生物を大切に作る智慧の一種であろう。なお、卵に酒をかけるとどのような影響が起きるかは不明……。清める程度なので大量ではなかったろう。

房総の海岸では、現在でも様々な目印に竹を立てており、その場所が誰かにとって何らかの意味をもつことを示しているのも興味深い。

さて！今年の鴨川の海岸でのウミガメの産卵のときには・・・

- ・ 亀の死体を見つけた場合には、埋葬して竜神様としておまつりした。天面では四社神社の裏が海亀の埋葬場所となっていたという。鴨川では亀の埋葬場所は地区ごとに大体決まっていたようであるが、銚子市にみられるような亀の墓のような埋葬形態はとっていない。

現在でも、ウミガメの死体は死因を特定して保護に役立てるために、保護活動をしている人たちによって調査が行なわれている。打ちあがったものは、ストランディングと呼ぶ。

（・は鴨川市史より抜粋。 のコメントの文責は清野聡子）